



日刊(但土曜日曜祝日休刊) 定価1カ月4,000円(送料+税込み)

発行所 保険毎日新聞社 東京都千代田区岩本町1丁目4番7号 電話 03(3865)1401(代表) 振替 00140-6-70860 ©保険毎日新聞社

有識者 約10人

ERM醸成目指し本格始動

CROフォーラムの日本版目指す

ストレスシナリオ研究会

東日本大震災とそれに伴って発生した福島第一原子力発電所事故を背景に組織全体のリスクを統合的、戦略的に把握し、価値最大化を図るERM(エンタープライズ・リスク・マネジメント)統括リスク管理の重要性とERMに対する経営のより強い関与の必要性が再認識されている。そうした中、長年ERMを実務として研究してきた約10人の有識者で構成する「ストレスシナリオ研究会」が活動を本格化し、頻りに協議を重ねている。金融庁が保険検査マニュアルにERMの検査を導入するなど保険業界でもERMの認識は広がっているが、同研究会は日本版「CROフォーラム」(注)のような各企業の枠を超えた議論の場を設け、ストレスシナリオの内容を深掘りすることでERMを有効に活用し、企業戦略、国家戦略としてERMの醸成を目指す。

同研究会は保険、銀行、証券などの業態別、また日本の金融庁や欧州の金融規制当局、EBA(欧州銀行監督機構)、IAIS(保険監督者国際機構)など規制機関別

ほか、各金融機関の内部テスト、ストレスシナリオの対象となる実例を分析し、ストレスシナリオの在り方を探る目的で今年初頭に立ち上げられた。実際に経営陣が協議に参加し、CROフォーラムのような議論を展開している点特徴だ。同研究会が対象とするストレスシナリオのリスクは日本や中国、欧州、米国、そのほかアジア各国のマクロ経済、ソフトリスク、公社債、株式

市場、為替リスクなどのマーケットリスク、信用リスク、流動性リスクに加えてイラクやイラン、北朝鮮、中東などの地政学的リスクや巨大地震、洪水・津波、台風などの自然災害リスク、パンデミックリスク、システムリスクなどさまざまなものがある。同研究会は、単に個別のイベントごとのリスクをとらえるのではなく、「シナリオ」として統合的、実務的に考察し、ERMの中

心軸となる経営陣がそれらを通じて経営的にレビューできるかを重視している。東日本大震災や福島原発の事故を通じ、企業や国家の経営に携わる人間が経済的、政治的、自然環境的なリスクシナリオをより高度なレベルで準備する必要性が再認識された。仮に見通しに甘さがあった場合、結果的に

外部に向けて、議論の成果の発信や共有も可能な限り行い、日本の企業レベル、国家レベルのERMアプローチの水準向上に貢献することを目指している。金融庁は「リーマン・ショックや今回の大地震の経験を踏まえれば、ストレスシナリオは金融機関のリスク管理に不可欠な要素であり、そうした活動に期待したい」としている。

(注) 欧州の保険業界では、有力な保険会社のCRO(最高リスク責任者)によって「CROフォーラム」という場が形成され、定期的に各社の枠組みを超えた議論が活発に行われている。